

第15回まちづくり市民会議議事録

- 日時 平成22年6月16日（水） 午後6時30分～8時45分
- 場所 太田市役所10階 政策推進会議室
- 出席者 西村会長、福田副会長、秋山委員、窪田委員、新藤委員、高倉委員
棚澤委員、塚田委員、徳永委員
田中企画政策課長補佐、小川主任

(委員9名、市2名)

【概要】

1. 歴史（産業遺産・文化遺産）について

- ・歴史チームチーフ作成の資料について、「私立」を「市立」に訂正。
- ・丸山宿は熊谷と桐生を結ぶ旧道の宿場町であり、数は多くないが古い家屋が立ち並んでいる。ウォーキングコースの一部にするなどの活用が考えられるが、立ち寄れるお店などはない。
- ・提言書の作成に際して、「あるべきすがた」を具体的に描くことが大変難しい。
- ・企画政策課、商業観光課、文化財課等関係課の歴史観光への関わり方が統一されておらず、それぞれが点で動いている。
- ・商業観光課は商業に携わる比重が大きく、観光が手薄である。
- ・太田市景観条例が施行されたが、観光が考慮されていない。
- ・現在、「子育て」はトピックスであり、「子育て呑龍」がある本市は集客の好機であると考えられるが、大光院は観光に熱心ではない。
- ・大光院は宗教法人であるため行政の支援にも限界がある。大光院を観光資源として盛り上げるためには地元住民が動く必要がある。

2. 環境（緑・水・エネルギー）について

- ・緑に対する考え方は様々であり、樹木だけでなく田畑も緑である。
- ・本市は公園面積が全国でも上位に位置するが、その大部分が金山であり緑が多いとは言えない。
- ・緑が多いと人は散歩する。市内に緑が多くあればいいと思う。
- ・北口駅前広場が完成したが、緑や樹木が全然ない。仙台市は「杜の都」と呼ばれるが、実際は市内の樹木はそれほど多くなく、印象に残るような効果的な植樹がされている。本市も、玄関口である駅前に緑が多くあれば市の印象が変わる。
- ・市内で電線が地中化された場所があるが、街路樹がなく日が照りつけているだけである。
- ・北口駅前広場や電線地中化後の道などに樹木がないのは、住民の要望がないからではないか。
- ・緑や木については、市街地と田園地域を分けて議論し、それぞれの地域事情を考慮すべきである。

- ・本市は環境政策に力を入れている日本でも有数の都市である。積極的に、「環境」を観光資源とするべきである。
- ・「パルタウン城西の杜」の太陽光発電やスーパーエコハウスの見学者を観光客として取込む。
- ・市内には川が多く流れているため、「水」を観光資源として活用することを考える。
- ・本市の川の一部は汚いと言われるが、西村会長所属団体の調査によれば、実際はそれほど汚れていない。
- ・水や緑をどうするか、ということは「まちづくり」の話である。部分的で細かい話ではなく、基本的で総合的な議論をするべきである。
- ・NHK 大河ドラマの舞台となったこと、木枯し紋次郎がテレビ放映され紋次郎饅頭が売れたことなど、一過性のものでは観光客は増えない。

3. その他

- ・事務局が、5月27日に群馬県東部行政事務所主催で開催された「おもてなし講習会及び第2回ググっとぐんま観光宣伝推進東部地域部会」の概要を説明した。
- ・8月の会議から提言書の作成を開始する。その際、たたき台を用意し、それに修正を加える手順で行う。
- ・次回の会議では、引き続き「環境（緑・水・エネルギー）」を検証する。

【次回の会議】

日時 7月15日（木）午後6時30分～

場所 太田市役所10階 政策推進会議室